

How do we Know God Loves US

どうやって私たちに対する神様の愛を確認することができるでしょうか？

皆さんは、「神様」という言葉を耳にすると、どんなイメージが浮かんで来ますか？（1）神様は、無関心に、ただ傍観的に私たちのことを見ているでしょうか？（2）あるいは、神様はとても強い関心を持って私達をじっと見、追い求めておられる方でしょうか？ 実は、聖書にははっきり書いてありますが、神様は私たちのことが大好きで、積極的に追い求めておられるのです。

主は、...ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めにすすむことを望んでおられるのです。（2ペテロ3：9）

ルカの15章では、三つのなくなったものについての話書かれています。ある羊飼いがなくなった一匹の羊を追い求めた話。また、ある女の人がなくなった銀貨を探し出した話。そして、あるお父さんが一時的に、いなくなった息子を見つけた話です。この三つの例えばなしに目を向けるなら、やはり神様は失ったものを積極的に追い求めていらっしゃることを確認することができます。

皆さん、神様が、あなたをも追い求めて、見つけてくださったことを覚えていらっしゃるでしょうか？そうですね。私たちは信者として「神様を見出した」というのではなく、逆に、神様が私たちを見つけてくださったと言った方が正しいのです。この「二人の息子」の話と一緒にみてみましょう。そして、この話を考えながら、神様は私達に対してどのような姿勢を持っておられるか、ぜひ覚えていただきたいと思います。

(1) 神様は大変な状況が起こることを許されます

15:14 何もかも使い果たしたあとで、その国に大ききんが起り、彼は食べるにも困り始めた

ある農家に息子が二人いました。その二人の息子はお父さんと一緒に農場で働いて生活をしていました。ある日、弟が父に財産の分け前をくれるようお願いしました。なぜかという、彼は農場や自分の家族から離れて、自立したかったからです。独立して、新しい生活を送ってみたかったようです。

旧約聖書には、昔の財産の分け前のことについてかかれています（申命記 21：17）。親は、自分の全財産の中から、2分の1を長男に与えなければなりません。ですから、この弟は、財産の3分の1をもらったと考えられます。彼は、財産の分け前をもらってから、幾日も立たないうちに、何もかもまとめて、遠い国に旅立ったと書いてあります。

弟は自分のお父さん、そして今まで過ごした農家での生活から離れたかったので、遠い国に行ってしまいました。人生の全てを自由にしたかったのです！しかし、そのお父さんは自分の息子のことを忘れられませんでした。ずっと息子さんの帰りを待っていてくれたのです。

それと同じように神様は私達のことでも忘れられません。私たちがいくら神様から離れて、遠くへ行っても、神様は私達を追い求めてくださり、救おうと思っておられるからです！詩編 139：7～10に書かれている通りです：

139:7 私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。

139:8 たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。

139:9 私が 暁の翼 をかけて、海の果てに住んでも、

139:10 そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私をとらえます 捕えます。

しかし、神様はどんな方法を用いられるのでしょうか？ どのように私達を取り戻してくださることができるのでしょうか？ それは、大変な状況を許されることだと聖書に書いてあります。放蕩息子のお話をもう一度見ましょう。13節では、弟は放蕩して、財産の全てを使い果たしてしまったと書いてあります。その後、大ききんが起こって、彼は食べるにも困り始めたと言っています。

神様はよくこのような方法を使っていると思います。例えば、BC 700年前、ヨナという預言者はニネベという町に使わされました。しかし、ヨナは主の御顔を避けて、全く逆の方こうにあるタルシシュという町に行ってしまいました。神様は暴風を送って、ヨナを大きな魚のお腹に閉じ込められました。そして、その魚の中で、やっとヨナは悔い改めることができ、神様のもとに帰って来ました。

九死に一生を得るような状況によって、つまり悲惨な状態によって神様はヨナを取り戻すことができました。

そしてヨナの話のずっと前、私たちの先祖^{せんぞ}アダムとイブは同じように神様に背いてしまいました。彼らは神様から離れた、自立した生活を送りたかったからです。そして、食べてはいけないと言われた果物を食べてしまいました。その後、彼らは大変な試練を経験しました。それは神様が許されたからです。この世にある苦しみを体験することによって、神さまは彼らがもう一度、ご自分に帰って来ることを望まれたからです。

財産^{ざいさん}をもらって旅^{たび}に出た弟の話に戻りましょう。大ききん^{だい}を許す計画はうまくいきました。最初の方、弟は父を離れて、遠い国に行ったら幸せな生活が送れると思いましたが。しかし結局、彼はその国のある人に、豚の世話をさせられるようになりました。そのような仕事はユダヤ人にとって本当に恥ずべきものでした。豚は法律^{ほうりつ}によると汚れた動物だったからです。ある時、彼は、「我に返った」と書いてあります。そして父のところに帰って謝り、父の僕^{しもべ}として雇^{やとって}ってもらおうと決心しました。

神様に許された悲惨^{ひさん}によって、彼は我に返ったと書いてあります。彼の救いは悲惨のおかげだと言ってもいいでしょう。

皆さんは同じように悲惨^{じょうたい おちい}な状態に陥った体験をしたことがありますか？今もあなたは試練で苦しんでいらっしゃいますか？神様は自分を愛しておられないのではないか、神様に見捨てられたのだろうか心配することがありますか？事実は、神様はいつも私たちを忘れることなく、追い求めておられます。そして、神様は試練を用いてあなたが自分を取り戻されるように働いておられるからです。

8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

あきら
諦めないでください！

(2) 神さまはありのまま私たちを受け入れてくださいます

(15 : 20 ... 彼を抱き、口づけた)

遠い国では、弟は仕事を探さなければなりませんでしたが。しかし、以前、言った通り、大ききん^{ぶた}があつたため、豚にえさをやる仕事しか見つけれませんでした。

その豚小屋ぶたこやにいる弟の中で何か大きな変化が起こりました：「我に返った」と書いてあります（15：17）。そして彼は父のところに帰ることを決心しました。まだ遠くはなれているのに、外で待っていた父親に見つけられて、暖かい歓迎を受けました。実は、お父さんは歩いたのではなく、自分の愛する息子のところまで走っていて、抱きしめて、口づけまでもしました（15：20）。

感動的かんどうてきですね。この息子は豚の汚れで満ちていたのに、お父さんに受け入れられて、抱きしめられました：

15:24 この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。』

(Pig smell!) 息子が父の所に戻ることを決心したその時、死から命へ移されたということですね。息子がまだ豚の汚れで満ちていることは問題ではなく、彼のところが正されたので、外観がいかんのことより、内面ないめんつまり心が大切だったのです。

聖書は言っています：

ヨハネ5:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。

信じた、その時ですね。

大切なのは、私たちの行動ではなく、私たちの信仰が大事なのです。父は汚れていた弟がまずお風呂ふろに入るようには願わなかったのです。父はありのまま自分の息子を受け入れました。弟は後でお風呂に入るチャンスが十分あるでしょう。しかし、彼の心は、信じることによってもうすでに清くされていました。

私たちも、自分を清くしてから神様にアプローチするのではなく、神様は信じる私たちをありのまま受け入れてくださいます。もちろん、後でお風呂に

入って、色々汚れを取る必要があるかもしれません。信仰者^{しんこうしゃ}として成長して行くうちに、私たちはどんどんクリスチャンらしくの生き方ができるようになると思います。しかし、一番大切なのは、信じて救われることなんです。そのため、私たちは求道者^{きゅうどうしゃ}や新しいクリスチャンに対して、寛容的^{かんよう}な心を持つべきだと思います。新しく生まれ変わった人の場合は、イエス様に信仰さえがあれば、とりあえず、それは十分です。もちろん、彼らの人生の中に、そして行動に関しては、変えるべきところがあると思います。それを無視すべき時もあるし。そして何かを言う必要の場合は、本当に優しく、祈りながらでなければならないと思います。

東京にある教会でのことですが、一人の求道者がきました。彼はヘビースモーカーでした。礼拝が終わってから彼はよく、外に出て、タバコを吸いました。メンバーの中には、ちょっと冷たい視線^{しせん}を持つ人はいました。しかし、私の友達^{ともだち}はいつもその人と一緒にそとにでて、続けて会話をしました。裁^{さば}くことなしに、神様の愛を示しました。

完璧でなくても、神様は私たちを愛しておられます。私たちの行動がよいからではなく、私たちがイエス様を信じているからです。

今も、あなたの父の愛情のこもった抱擁^{ほうよう}を感じていますか？この話の父は恐ろしい父ではなく、自分の息子を抱きしめ、口づけをました。あなたの天にいらっしゃる父もあなたを抱きしめようと思っておられます。ですから、ありのままに神様のみ前にでて、神様の無条件^{むじょうけん}の愛を、イエスキリストを通して受け止めてください。そして、私たしの成長しているうちに、神様はどんどん私たちの外面的なところも清くしてくださいます。

(3) 神様は私たちに本物の喜びを与えてくださいます

15 : 25 「...音楽や踊りの音が聞こえて来た」

弟が帰ってきてから、父は弟のためにパーティーを開きました。楽しい音楽や踊りがありました。遠い国で弟はたくさんのパーティーに参加したはずで、確かに、弟は短い間に楽しい生活を過ごせたと思います。しかし、その遠い国でのパーティーと今、父の家で行われているパーティーとを比べたら、今の方が絶対に素晴らしく、楽しい出来事^{かっ}だと思います。自分勝手な、わがままな生活をすごしていれば、周りがどんなににぎやかであっても、心

はくらく、真^{しん}の喜び^{よろこ}がありません。しかし、父^この心地^{こち}のよい家で、そして子供のころからずっと親^うしんできた友達^{れい}や親戚^{しんせき}の中でお祝^ういするのは何とも言えない嬉しい^{うれし}時^いとなったと思います。神様^まや神様^まの人々との交^まわりは、この世的^まのイベントでの交^まわりよりも、はるかに楽しいからです。 (JANZ)

弟^うは家^ちに帰^かえて、本当に嬉^うしかったらと想像^むできます。皆さんは、誰か、神様^まから離^なれた人のことを思い出^むしますか？その人は楽しく過^むぎしているかもしれません。しかし、神様^まがいなければ、心のどこかに、寂^むしさを虚^むしさが必ずあると思います。その人の救^まいのために祈^まりましょう：神様^まのところでは、真^まの喜び^{よろこ}のある音楽^まや踊^まりがあるからです！

そして、私たちクリスチャンは、神様^まがくださろうと思^まっておられる交^まわりの機会^まを見過^まごさないように気^まをつけましょう。ぜひ、教会^まに継続^ま的に来^まてください。そして、教会^まの祈^まり会^ま、イベントも、ぜひ重^まんじてください。

10:25 ある人々^まのように、いっしょに集^ままることをやめたりしないで、かえって励^ままし合い、かの日^まが近づ^まいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。

やはり、神様^まはただ私たち^まを待^まつだけではなく、私たち^まを積極^ま的に追^まいかけてくださるからです：

- 神様^まは大変^まな状況^まや試^ま練^まを許^まされます
- 神様^まはありのまま^ま私たち^まを受け入^まれてくださいます
- 神様^まの報^むいはこの世^まが提^て供^いするものより絶^ぜ対^{たい}良^りいものです

しかし、神様^まがくださろうと思^まっておられる報^むい、主^まからの音楽^まや踊^まりの催^もし物^よ、見過^まごさないように気^まをつけましょう。自分^まをだますことに気^まをつけましょう。

弟^まは、自分^まは罪^ま人^まだとよく分^まかりました。救^まいは絶^ぜ対^{たい}必要^まだと彼^まは悟^まったので、彼^まは悔^まい改^まめて、父^まのパーティーに参^ま加^ますることができたわけです。

しかし、兄^まはパーティーに参^ま加^ますることを拒^まみました（15：28）。イエス様^まはこの例^まえ話^まを通して、ご自分^まの話^まを聞^まいているパリサイ人^まに注意^まをしておられます。以前^ま、15：2では、パリサイ人^まはイエス様^まにつぶやいて言^まいました：「この人^まは、罪^ま人^またちを受け入^まれて、食^ま事^ままでいっしょにす

る」。しかし、パリサイ人は、自分達も罪人だとは理解できませんでした。罪人たちは、自分は罪人だと分かっているから、救いを得ることができます。しかし、自分の罪を実感していない、救いを求めないパリサイ人は、お兄さんと同じように、パーティーに参加できず、父の家に入ることができませんでした。

外面的に、パリサイ人は罪をおかしてはいなさそうです。彼らは宗教的な人生を送って、偉^{えらそう}そうな行動をしていました。彼らはその弟と同じように、豚の汚れで満ちているわけではありません。かえって、お兄さんと同じように、いつもよい勤めをして、いつも「正しい」生活を送っていました。しかし、そのお兄さんの心、また、パリサイ人の心も父に対し、また神様に対し、冷たいものだったと思います。パリサイ人はイエス様に頼らずに、律法を守っているので自分たちは正しいと思っていました。救いなんていらない！と彼らは思ってしまいました。

しかし、聖書では何を書いてありますか：

3:10 それは、次のように書いてあるとおりです。「義人^{ぎじん}はいない。ひとりもない。

私たちの行動がどんなによくても、天国に入ることができません。それはイエス様を信じることのみでできることだからです。弟は、父の家に入るために自分には資格^{しかく}はなかったと分かったので、彼は悔い改^{くいあらため}めました。しかし兄は、自分には資格があると、そして自分の行動は正しいと思っており、悔い改めることをしませんでした。彼は救いを得ないまま、家の外、御国のそとに残されてしまいました。(Add true story)

今日、皆さん、どこに立っていらっしゃいますか？

- あなたは、弟のように、自分の行動はただしくない、それで、神様からの赦^{ゆる}しが必要だと分かっているから、別^{べつ}に神様の救いは必要ではないと思^{おも}っていらっしゃいますか？
- また、あなたはお兄さんのように、自分の行動は正しいから、別に神様の救いは必要ではないと思^{おも}っていらっしゃいますか？
- また、あなたはもうすでに、イエス様を信じて、父の家にも住んでいます。しかし、最近、神様に感謝をあまり捧^{たも}げていません。神様と、そして他の信者たちとの交^{まじ}わりことをそんなに大事にしてい^しないでしょうか？

では、祈りの時を持ちましょう。